

青森ねぶた祭 概要

ねぶた祭は青森市の夏を代表するお祭りにして、北国の短い夏の終わりを象徴的に飾るお祭りでもあります。祭りに携わる地元の人や企業、またさまざまな団体にとって、これは何ヶ月にもおよぶ準備の集大成。祭りの日が近づくと、青森市全体が興奮の波に包まれます。ねぶた祭は仙台七夕まつり、秋田竿灯祭りと並んで、8月に開催される東北三大祭りのひとつ。毎年8月2日から7日までの期間中には、250万人を超える観光客が訪れます。

祭の肝となるのはねぶた山車。これはライトアップされる巨大な灯籠で、多くは歴史的イベントや歌舞伎の一幕を題材に作られます。祭りの参加者は3キロの行列ルートに沿ってねぶたを押し、地元の人や日本中から集まった観光客は道沿いに座ってその行列を眺めます。行列では跳人と呼ばれる踊り手が「ラッセラー」のかけ声と共に踊りを披露し、行列を応援するとともに観客を盛り上げます。お囃子衆の太鼓が奏でる低音はねぶた行列のルート上に響き渡り、観客は屋台で祭の味を楽しみます。

ねぶた祭の起源は、星々を祭る七夕祭りと、ねぶた流しと呼ばれる青森の慣習が合わさったものだという説が有力です。これらの催事の時、人々は川や海に灯籠を流していました。今のねぶた祭の山車はここから発展したものです。現在見られる巨大な人型のねぶた山車が定着したのは第二次世界大戦後のことで、1980年にはねぶた祭が重要無形民俗文化財に指定されました。現在日本政府はその美と伝統文化という観点からねぶた祭を保護しています。

祭りは6日間にわたって行われ、夜のねぶた運行は8月2日から6日までの間、午後7時10分から開催されます。6日には22台全てのねぶた山車が披露されます。最終日となる8月7日は、午後1時から始まる昼のねぶた運行に始まり、その年一番のねぶた山車と花火で彩られる夜の海上運行で祭りを締めくくります。さらに6日間の祭りに先がけて、8月1日にはねぶた山車の組立が行われるねぶたラッセランドにてねぶた祭前夜祭が開催されます。会場には屋台が立ち、お囃子が流れるほか、完成したねぶた山車の展示や浅虫温泉花火大会も行われます。